

社長として働きやすい職場環境の整備に向けて

東京都管工事工業協同組合
神谷設備工業株式会社 代表取締役 神谷晴江

現在、多くの分野において女性の活躍が進んでいますが、管工事業界への参画は非常に少なく、男女が共に生活を両立できるような環境の整備をしていく必要があると思います。

管工事業界ではどうしても男性中心の職場環境になりがちであり、女性が活躍しづらい場合が多いと考えられます。その中で、女性社長として管工事業界の第一線で活躍されている神谷設備工業(株)の神谷晴江代表取締役に紹介して頂きます。



先代社長達と共に（著者は写真一番右）

1. 企業方針、会社概要

昭和8年初代社長が日本橋茅場町の地に神谷工務所を開業し戦災にあい休業。2年後神谷水道工業株式会社とし設備工業拡大と共に増資、昭和30年に現在の社名となる。戦後GHQの支配のもと上下水道の整備がなされ、各家庭に風呂と水洗トイレ設置がされるようになる中で仕事の引き合いが多くなり業績を伸ばした。20年前までは大手ゼネコンの下で店舗の設備営繕、改修工事、社宅の管

理などをメインに行っていましたが、いまはビルオーナー様と設備の更新や、店舗の修繕をメインに仕事をさせて頂いています。企業方針は初代格言として「責任に生きよ」を設立時から守っています。目には見えない配管や設備は通常に動いて当たり前、しかし不具合を起こすと生活や営業に大きな支障をきたします。ひとりひとりが責任を胸に仕事をすることでお客様も社員も満足できると考えます。



若手への指導育成に取り組む

2. 社長就任後の仕事の感想

父の跡を継ぐつもりで27歳の時に会社に入りました。大学は文学部で畑違い。入社時は職業訓練校を調べたり資格の勉強をしたり、また、新入社員として先輩方の仕事を見て覚えようと必死でした。5年後10年後のなりたい自分になるための準備をしていました。

その当時、社長に対しては「言い方がきつい」「聞いたことは決定的に言い切られてしまい、任せてもらえない」「仕事の指示がいちいち細かすぎる」と思っていました。

先代は会社で父娘の関係から厳しく一線を引いてくれたので私は仕事がしやすかったです。父娘の関係よりも、経営者と従業員の関係の方が素直に言葉に耳を傾けることができました。そのような関係づくりは私も実践していきたいと思

いました。

先代が病気のために入院3か月で他界し同時に社長に就任しました。はじめは不安と期待が入り混じった気持ちでしたが、銀行や取引先、仕入先とのやりとりは戦い。考えるより行動、自分の気持ちなんてものは関係なく会社と従業員の皆さんを守ること、お客さんをつなぎ留めることに必死でした。その時の頼りは母を含めた従業員さんと組合（中央支部）の先輩方でした。先輩方は同じ経験をした方が多く相談にのってもらいましたし、仕事についても色々教えてもらいました。その当時の日記に

- ①自分できめなければならない。
- ②決めたことには責任も取らなければ。
- ③従業員の家族と健康を守らなければ。



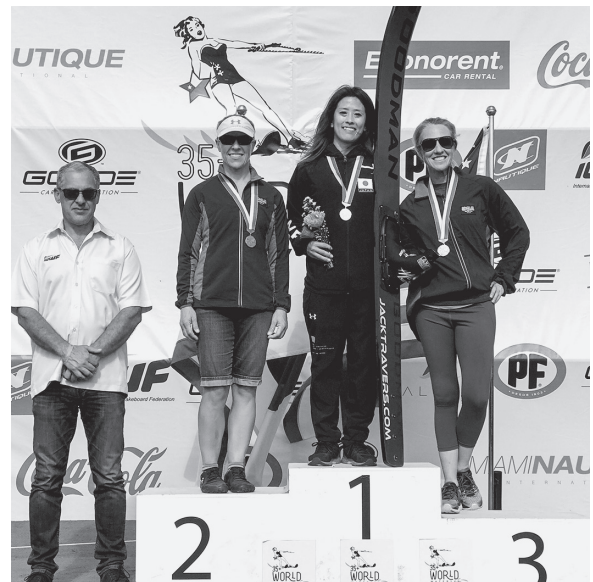
水上スキースラローム競技

と書いていました。この時は目まぐるしく変わる環境の中で何とか会社を続けていくために、トップというものを自分なりにこう考えていました。今振り返ると、仕事・会社のことをすべて正面から受け止めすぎて周りが見えず、自分で自分を追い詰めていたと思います。29歳で会社を継げばそうなるのかもしれませんが……。

今、大事にしていることは従業員の健康、会社の健全な経営、お客様に喜ばれる仕事をする事、地域貢献です。社長に就任する前と後では考え方として「I（アイ）」から「Them（ゼム）」に変わりました。自分の成長や充実ではなく人に対して社会に対して何が出来るか、また何が必要とされているかを基準にそれらを作り出さなければならないと考えるようになりました。

水回りの現場を支える

役割としては目には見えない配管廻りは急に襲ってくる不具合や故障は生活に



2018年、シニア世界選手権で優勝！（チリ）

大きな支障をきたします。また、生活様式によって変わってきている設備の変化に対応していかなければなりません。お客様の日々の生活が豊かなものになり、また衛生環境を維持できる、守れる仕事をする事と共に従来の水回りはまとめて設計・配置されるが配管にとられない自由な設備の設置を目指していきたいです。

3. 今後の展望

地域力の強化：地元企業として地域の活動に加わり町会の青年部として活動しています。企業の社員と地域の人顔がつながることで日頃のあいさつが始まり、子供やお年寄りへの声掛けが防犯や災害時には手助けが必要な方々への配慮ができるようになると思います。具体的な活動として区で定められた小学校を防災拠点とし（災害時などの備品などを保管、緊急避難場所として住民に指定されている）の運営委員会に入り、11月に地区全体で行われる避難訓練のお手伝い



地元青年部活動の様子

を行い、役所との打ち合わせをしながら毎年訓練内容を工夫し、地域や時代に合ったものを実施しています、特に私は防災井戸があるので井戸の扱いについて主体的に取り組んでいます。

働き方改革

先代のころからの取引先は慣習として土日作業が多く音や断水の絡む仕事はほとんどがそうです。付き合いが長い中ではなかなか変えづらいが新規取引先ではデメリットを極力減らし（断水・音・臭気）、金額面やお客様の休日出勤の軽減などメリットを前面に押し出してなるべく平日や平日の早朝に行わせてもらうことで土日の休みを確保できるようにしています。

コロナの影響で電車通勤が怖いと感じる社員には車での出社も容認しました。さすがにテレワークのできる仕事はまだないのが現状です。

私が続けられる理由

入社当時は事務職でしたので朝8時から現場が終わるまで勤務し土日は休みでした。しかし仕事を覚えるにつれて平日は内勤、土日は現場の仕事を勉強しに行



仲間たちと共に

くという感じでした。材料の名前を覚えたり、工程管理をするには現場に出ないと教わったからです。少しずつですが仕事を覚えることでやる気にもつながりました。また施工管理や上下水道設備の資格を取得するモチベーションにもなりました。会社では資格取得にも力を入れていて組合で開催されるセミナーに参加し合格した際は受講料、受験料を支給していました。資格については組合の先輩方にも取得を強く進めてもらい応援して頂きました。合格した時とても喜んで下さり今でもうれしかったことを覚えています。

個人的には水上スキーというスポーツをしています。学生時代から始め今でも日本代表として海外の試合に遠征しています。入社当時は社長の娘だからそんなに休めるんだ、という空気を感じましたが2018年シニア世界選手権で優勝し2019年には全日本選手権でも総合優勝しました。今では「メダルとれなかったら帰ってこなくていいよ」なんて言われます。1試合行くのに8日ほど休まなければなりません。仕事でも迷惑をかけて

いると思いますが、試合に行かせてもらった以上ベストパフォーマンスをしようという気持ちになりますし、会社に戻ってからも休ませてもらった分一生懸命に仕事をすることができます。よく「仕事に追われるな、仕事を追え」といわれますが試合の後は自然とできるんですよ。

今年はコロナの影響ですべての試合がキャンセルになりました。しかし、来シーズンに向けて切り替えて練習しています。チャンスはどこで回ってくるかわからないので、来るべき時に備えしっかり身体も技術も整えていかなければならないと思っています。これは仕事にも通じるものがあり、うまく仕事が廻っているときは気が付きませんが、日々の仕事を廻していくには日頃からの準備とトラブル時の対応、社内でのコミュニケーションなどを整えなければなりません。水上スキーも仕事も共通点がたくさんあると思っています。

私がこの仕事を続けてこれたのは人とのつながり、人から感謝されるやりがいのある仕事だからだと思っています。地元のお客さんが神谷設備だから仕事をくれる、相談してくれ問題が解決すると「ありがとう」と言ってもらえて役に立ったのだと感じる、先代からの会社の信用があるからだと思いますが私も引き継いでいると感じることがあるからです。

人材確保：2019年東管青年部協議会で蔵前工業高校に「出張授業」に初めて行かせてもらいました。2018年から先

輩方が始めた授業です。

設備課の1年生2組を2部制にして、1部は業者さんによるポンプの説明、2部は青年部と学生7人グループでの仕事の説明や業界に対しての質問を実施しました。学生たちの不安な気持ちと現場で働く我々とのギャップの多さに驚いたのと同時に、ある生徒さんは「卒業後には〇〇設備さんで絶対に就職したいです。」とやる気のある発言をしてくれて授業を沸かせてくれました。採用する側と採用される側になると見えなくなってしまう本人たちの気持ちがわかりとてもいい機会になりました。面接ではなく交流の中でお互いのニーズを図れるととても有効な人材確保の場であるとおもいました。

働きやすい職場

私が考える働きやすい職場とはお互いを尊重し、良好なコミュニケーションをとれることであると思います。人生のステージが変われば働き方も変わる、結婚、大病、今年はコロナという前代未聞の事態、いろいろな知恵を出し話し合いときにはぶつかり、道を見つけていく。経営者と従業員がお互いの立場を尊重しながら考えて働けるそのような職場を作っていきたいと思います。

全管連では、女性社長・社員の活躍について本誌にて紹介いたします。自薦・他薦問わずご寄稿をお願いします。